

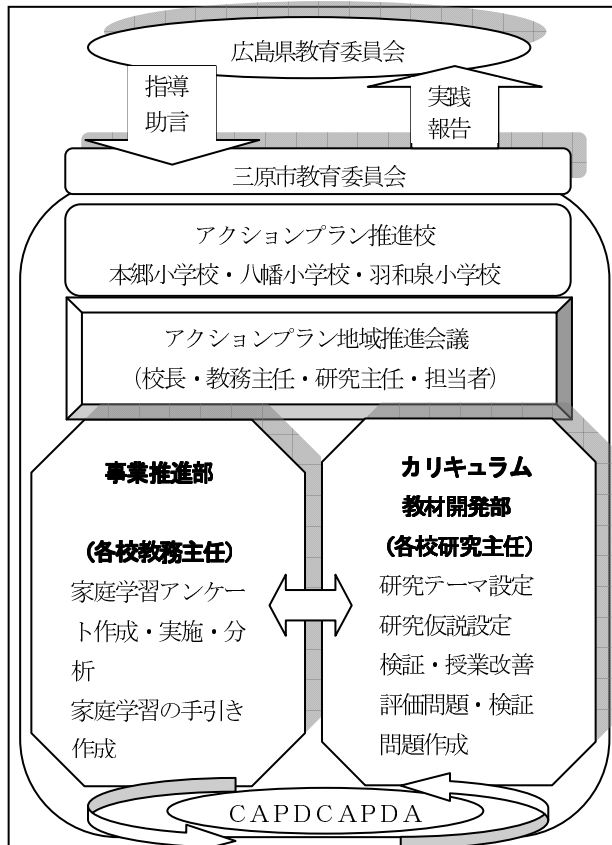
# Ⅱ 特色ある学校等の取組

## 三原市アクションプラン 推進地域 (本郷小学校・八幡小学校・羽和泉小学校)

### 1 研究の概要

知識・技能を活用して思考し表現する力の育成  
—説明する力を付ける授業の工夫  
授業と連動した家庭学習の工夫—

- (1) 研究のテーマ及び研究のねらい
- (2) 研究組織・体制



### (3) 研究内容

全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善

#### ① 教科の調査結果の分析

##### ア 国語科

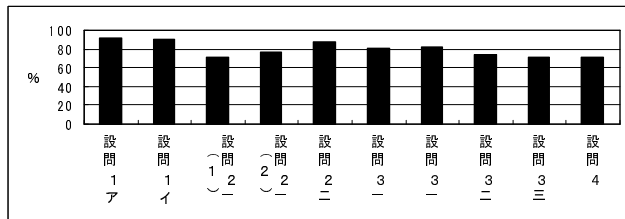


図1 (国語B) 各設問正答率

課題となる設問

設問4 目的や意図に応じて、必要な情報を関連付けて読み、理由を明確に説明する問題

課題：必要な情報を読み取り、根拠を明確にして説明する力の育成が必要である。

### イ 算数科

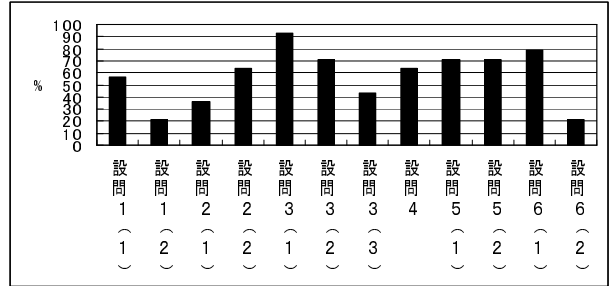


図2 (算数B) 各設問正答率

課題となる設問

設問6 (2) 示された図や考えを基に、長さの大きさを判断し、その判断の理由を円周の4分の1の長さを求める式と言葉を用いて記述する問題

課題：根拠や対象を明らかにして図や表と関連付けて説明する力の育成が必要である。

#### ② 児童質問紙結果の分析

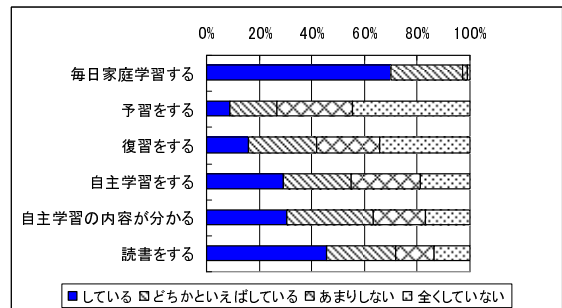


図3 家庭学習の状況

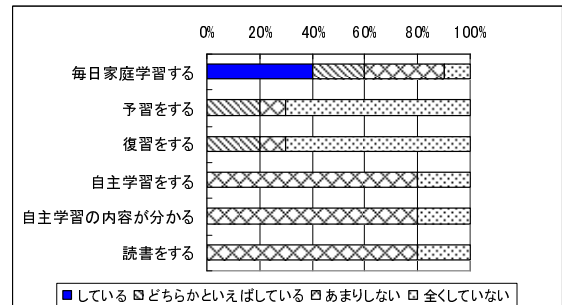


図4 正答率50%以下の児童の学習状況

#### (課題)

- ・自主学習でどのような内容をすればよいか確実に分かっている児童は30%しかいない。そのため自主学習を毎日行っている児童も30%である。
- ・毎日家庭学習はするが、自分から進んで復習や予習をする児童は少ない。
- ・読書は習慣化している児童もいるが全くできていない児童もいる。(2極化している。)
- ・正答率50%以下の児童は、全体と比べて毎日家庭学習を行っている割合が低い。
- ・正答率50%以下の児童は、読書時間が少ない。

### 2 授業改善の視点

#### (1) 授業づくりの視点

＜研究仮説＞

国語科、算数科において、説明する力を付けるための授業の工夫を行ったり、授業と家庭学習の連動を図る工夫を行ったりすれば、思考力・表現力を育成することができるであろう。

**視点1 説明する力を付けるための授業の工夫 (具体的な手立て)**

- ① 情報や条件の選択・関連付け  
 国語：複数の教材をもとに考えさせる問題等の提示。  
 算数：複数の条件を伴う問題、条件不足等の問題、関連付ける問題等の提示。
- ② 必要な既習内容の明確化  
 国語：系統性を確認し、実態を把握する。  
 算数：実態を把握し、解決に必要な既習事項を想起させる。
- ③ 目標の明確化と方法の焦点化・具体化  
 国語：習得させる「領域」「内容」を明確にする。  
 算数：付けたい力を明確にして自力解決の支援と評価問題の準備をする。
- ④ 相手意識・目的意識もたせた表現の場の工夫  
 国語：単元のゴールとして表現の場を工夫する。  
 算数：ねらいをもって集団解決の場（ペア・グループ等）を設定する。
- ⑤ 考えを「かく」・検討する・整理させる場の設定  
 国語：複数の根拠をもたせ、引用・図表を活用させる。  
 算数：根拠・論理・表現方法（絵、図、表、グラフ、式、算数的表現・用語等）を基に説明させる。
- ⑥ 相互の考えを交流し練り合う場の設定  
 国語：ねらいをもって集団解決・交流の場を設定する。  
 算数：練り合う授業を構成する。

思考力・表現力の基盤となる言語の能力を育成する  
 「言語活動の充実」  
 記録・要約・説明・論述等（各教科）

**視点2 授業と家庭学習の連動を図るための工夫 (具体的な手立て)**

- ① 予習のために  
 予習の内容・方法、予習を生かした授業、評価
- ② 授業内容の定着・習熟のために  
 実態に応じた課題の作成・課題の指導と評価の一体化・かく課題の提示
- ③ 応用・発展的な学習のために  
 発展問題・実生活への応用
- ④ 学習習慣確立のために  
 計画性・遂行性の支援・保護者関与のしかけ・個に応じた支援

(2) 検証の視点

**検証の視点1 説明する力を付ける授業の工夫を行うことによって、思考力・表現力を育成することができたか。**

- 評価問題、検証問題を作成及び実施し、思考力・表現力について検証する。
- 研究テーマに沿った授業を行い、授業評価表による教師の授業力を検証する。

**検証の視点2 授業と家庭学習の連動を図る工夫を行うことによって、家庭学習・自主学习（予習・復習）を定着させることができたか。**

- 児童に対して、学習に関するアンケートを実施し、家庭学習の状況・授業が分かりやすくなった等を検証する。
- 教師に対して、授業と連動した家庭学習を行わせたか、家庭学習の適切な評価を行ったかを検証する。
- 保護者に対して、家庭学習に関するアンケートを実施し保護者の意識及び子どもの家庭での学習状況を検証する。

**3 研究の成果と課題**

(1) 検証の結果

**視点1 説明する力を付ける授業の工夫を行うことによって、思考力・表現力を育成することができたか。**

- ① 児童の思考力・表現力の変容  
 (プレテスト・評価問題・検証問題・単元テストから)

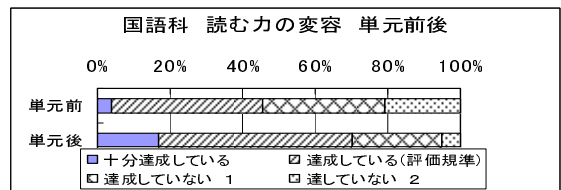


図5 国語科 単元前後の比較 (ルーブリック評価)

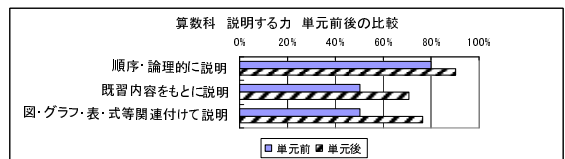


図6 算数科 (説明する力) 単元前後の比較

- ② 教師の授業力の変容 (授業評価表から)

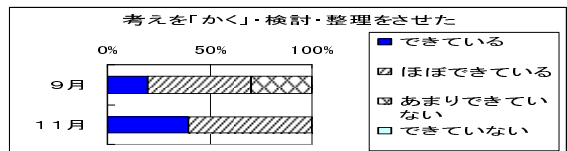


図7 考えを「かく」・検討・整理する授業の工夫の比較

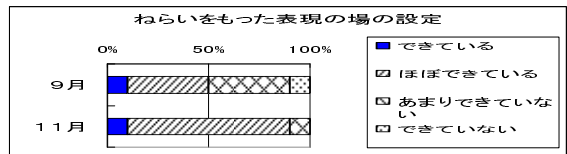


図8 ねらいをもった表現の場を設定する授業の工夫の比較

**視点2 授業と家庭学習の連動を図る工夫を行うことによって、家庭学習・自主学习（予習・復習）を定着させることができたか。**

- ① 児童の変容 (児童アンケートから)

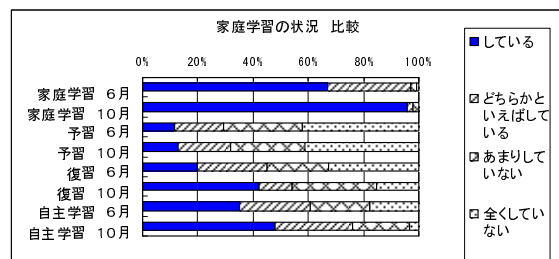


図9 家庭学習の状況

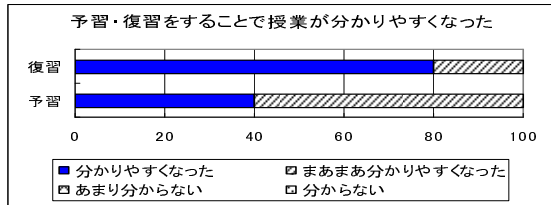


図10 予習・復習をすることで授業が分かりやすくなった

② 教師の変容 (教師アンケートから)

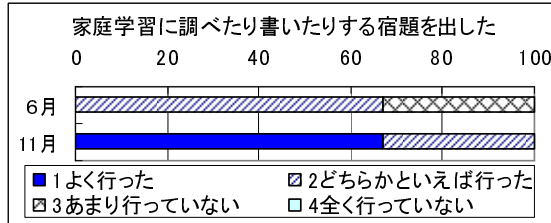


図11 家庭学習に調べたり書いたりする宿題を出した

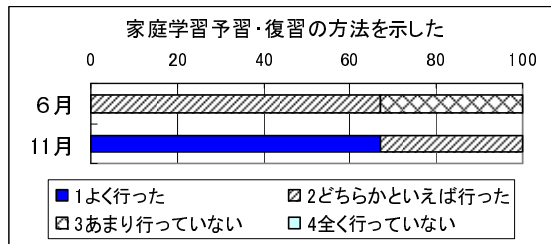


図12 家庭学習・予習・復習の方法を示した

③ 保護者の変容 (保護者アンケートから)

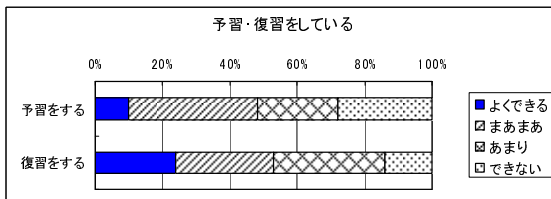


図13 前より予習・復習をしている

(2) 成果と課題

① 成果

- 学力調査の分析を基に説明する力に焦点をあて授業改善したことにより、算数科では、論理的に(順序立てて)根拠を基に(式や図・グラフ・言葉等を使って)解決方法を説明することができる児童が増加した。国語科では、内容に関連した資料を選び、理由を適切に説明することができる児童が増加した。
- 授業と家庭学習を連動させ、予習の方法を提示したり、授業の内容を定着させるための復習問題を提示したりすることにより、授業が分かりやすくなったと意識する児童が増え、家庭学習・予習・復習を行ってくる児童が増加した。また、授業と連動させ「調べたり・書いたり」する家庭学習を出す教師が増加した。

② 課題

- 相互の考えを交流させ高める場面において、どのようなねらいをもち、どのように児童の考えを比較・検討させてねらいを達成させていくか等の授業構成が十分ではなかった。
- 予習・復習を行ってくる児童は増加したが、50%である。

③ 今後の改善策

- 相互の考えを交流し高め合うための練り合いの視点を明確にするための教材研究を行い、発問の工夫等をする。
- 家庭学習の手引きの活用と予習・復習をしてくる児童

を増加させるための取組を引き続き行う。

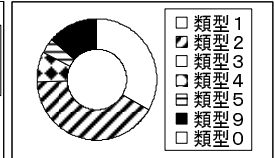
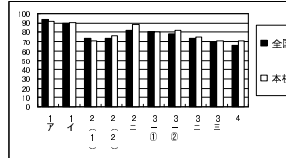
4 実事例

本郷小学校の取組 (国語科)

視点1 説明する力を付けるための授業の工夫

国語科の課題分析

- A 人物・場面・構成に注意しあらすじを書く。(設問2)
- B 目的や意図に応じ効果的な資料を活用する。(設問3)
- C 話し手に適切に質問しその意図を聞き取る。(設問3)
- D 資料を関連付けて条件に沿った説明をする。(設問4)



全国学力国語B正答率並び比

設問4における解答類型

設問4における解答類型から、根拠を明確にして説明する力に課題があると考える。課題BCDを説明文の授業において取り上げる。

- 第6学年 単元名 「未来予測会をしよう」  
(「百年前の未来予測」)

○ 単元の目標

- ・未来予測に興味をもち進んで予測し資料を集めようとする。
- ・考えたことを収集した資料を関連付けて効果的に話す。
- ・話し手の意図を聞きそれを確かめたり、自分と比べたりする。
- ・全体構造や、事実と意見の関係を押さえ、主張を明確に読み取る。

○ 単元の展開

	学習内容	評価規準
百年後の未来を読む	○ 未来予測について興味をもち文章の全体構成をつかむ。	・「序論」「本論1」「本論2」「本論3」「結論」という構成をつかんでいる。
	○ 文章の全体構成から筆者の主張を読み取る。 「段落内の文章構成の工夫をとらえる。 *課題D対応授業	・本論1と3の対比関係が主張と関連付けられていることを見付けている。 ・「予測」「現在の予測」「未来の予測」「主張」という構成に気付いている。 (パフォーマンス課題)①
未来への提言	○ 問題提起文を書くことを通して、筆者の主張を読み取る。	・筆者の主張を読み取り、その主張を踏まえた問題提起文を書く。
	○ 関心のある分野を選び、現在や未来を調べ予測する。	・現在の様子を踏まえた予測になるように調査メモを書いている。
	○ 未来予測の原稿を書き、互いにアドバイス合う。	・文章全体の構成を意識して原稿をつくっている。
	○ パネルディスカッション方法を知り、質問のあり方を考える。②*課題C対応	・形式やルールを理解し、効果的な質問を考えている。
	○ 効果的に伝えるために資料を工夫する方法を考える。③*課題B対応授業	・図、表、グラフ、写真等、考えを伝えるために効果的に用いる。
	○ 自分の考えを効果的に伝えるための資料を準備する。	・図、表、グラフ、写真等、自分の考えを伝える資料を準備している。
	○ 分野別パネルディスカッション「未来への提言大会」をする。	・考えを明確にして話したり、相手の立場を考えて質問したりしている。

授業改善のポイント (単元の展開表内①②③について)

○ 指導方法の工夫 -③効果的な資料の工夫について-

6つの資料を提示し、教材文に合わせたものを選択させる授業を行う。教科書教材を参考に、本論を分かりやすく説明するための資料を選ぶことができるようにする。またその学習を生かし、自らの発表のための適切な資料を準備させる。

高齢者交通事故死について	世界各国の人口10万人あたりの交通事故死者	渋滞する道路図	車載カメラ図
		電波発信する自動車の図	都道府県死者数

○ 教材の工夫 ②適切な質問について

「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」	「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」	「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」	「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」	「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」	「この問題、どうしてこのように解くのか、教えてください。」
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

質問の種類を相手の意図に対応しているかどうかで、レベルを設定し、実際に指導者が用意した発表に対し、それに合った質問事項を考える授業を行う。パネルディスカッションにおいてもそれを意識した質問ができるようにする。

○ 評価の工夫 ③パフォーマンス課題

評価基準	パフォーマンス課題	個への支援
「現在の様子」「未来予測」「自分の考え」の3つの視点で書いている。	「今の事はガリリンを題材とするものが多い。未来では水を燃料として走るものができるようになるだろう。すると地球温暖化も解決するはずだ。」	
「現在の様子」「未来予測」「自分の考え」のうち2つの視点で書いている。	「今の事はガリリンを題材とするものが多い。よりよく走るための効果的な表現が未来では水を燃料として走るものができるようになるだろう。」	「対比」による考えの強弱)について分かるようにする。
「現在の様子」「未来予測」「自分の考え」のうち1つの視点で書いている。	「未来では水を燃料として走ることができる。」	教材文の構成をもとに、文章の全体構成が分かるようにする。

羽和泉小学校の取組 (算数科)

視点1 説明する力を付けるための授業の工夫

算数科の課題 (算数B問題 6 (2) 誤答分析)

- 説明をするとき、もとめられている式・2つのことを比較することば・算数的用語を使って関係を説明することばの3つの条件を満たすことができている。
  - 具体的な手立て ①~⑥ (視点1参照)
- 算数科 第6学年「おこりうる場合の数」

③目標の明確化と方法の焦点化・具体化

本時の目標：4つのものの中から2つをとって組をつくる組み合わせの方法を考える。(数学的な考え方)

(評価問題)：5種類のアイスクリームの中から2つとってアイスクリームをつくります。簡単・速くて便利な方法を説明しましょう。また、なぜその方法がよいかを説明しましょう。

本時で児童に発見させたいこと・・・落ちや重なりがないように組のつくり方を考え、簡単・速くて便利な方法を考える。(AとB, BとAは同じ組み合わせであること。)(樹形図のよさ)

<p>①情報や条件の選択</p> <p>○身近なスポーツ少年団の試合の組み合わせの場面を設定し、経験などを結び付けながら問題の意味をつかませる。</p> <p>○既習を基に、順序よく整理する必要性をもたせながら、学習課題をつかませる。</p>	<p>②必要な既習内容の明確化</p> <p>○既習を想起させ、記号化や表、図(樹形図)などの方法の見通しをもたせる。</p> <p>○自分の考えをペアで説明し自分の考えを確かなものとする。</p>	<p>⑥相互の考えを交流し練り合う場の設定</p> <p>落ちや重なりがないようにするための工夫を説明させる。</p> <p>○樹形図を使えば簡単に早く便利に落ちや重なりがないように順序よく調べられるということを練り合わせる。</p>
---	---	---

- ⑤ 考えを「かく」・検分・整理させる場の設定
- 説明の方法：どのように順序よく落ちや重なりがないための方法を考えたか整理して考える過程に重点を置いて説明させる
- ・「仮に○○を1番に選ぶとすると……」というように自ら「仮に」と考え推論を進めていくようにする。
  - ・図・表を使って説明する。

○ 授業と連動した復習問題を設定

算数科では、定着させるための問題・説明する問題等を出す。本時の評価問題を家庭学習でも出す。評価問題は、次時の学習における既習内容となる。既習内容は次時の自力解決をするための根拠・方法にもなり、予習を行ったことにもなる。

そのため、付けた力を明確にして指導計画に家庭学習で何をするかを明記する。

- ※ 既習内容 (問題解決の方法・単元での学習に必要な知識・理解・技能) を単元に入る前に家庭学習とする。

算数科 第2学年 「ちがいをみて」(指導計画)

計算練習・算数的用語を習得させるだけでなく、解決の方法も想起させる。また、ことばで説明をさせる。

家庭学習	関	考	表	知	評価標準
求大の問題をテーマに図をもとにして解き説明する問題・問題づくりの加法・減法と桁計算問題					
2段のテープ図をもとにして解き説明する問題・問題づくりの加法・減法と桁計算問題	◎			○	・2段のテープについて理解している。 ・2つの数値の違いに着目し、一方が多いというときは、他方が差の分だけ少ないと考えている。
同種場面を2段のテープ図・言葉・式で解き説明する問題・問題づくりの加法・減法と桁計算問題	◎			○	・数量の関係を2段のテープに表すことができる。 ・2つの数量の違いに着目し、一方が少ないというときは、他方が差の分だけ多いと考えている。
求大の逆思考の問題。求小の逆思考の問題をテープ図を使って解き説明する問題		◎		○	・求大の逆思考の問題、求小の逆思考の問題をテープ図を使って解き説明している。 ・問題をつくっている。

八幡小学校の取組 (算数科)

視点2 授業と家庭学習の連動を図る工夫

説明する授業を基に、家庭学習にも「説明する」かく課題を出す。

- 授業ノートを活用する

ことば・式・図を関連させて説明させる

説明の仕方

- ・根拠をもって・論理的に(順番)・方法(図・表・グラフ・式)を用いて説明し操作と説明を結び付ける。

説明の仕方を提示し、家庭学習においても問題解決をする時には必ず『根拠・論理的に(順番)・方法(図・表・グラフ・式)(操作と説明を結び付ける)』を入れてノートにかかせる。

- 評価問題を活用する 一評価問題を家庭学習に位置付ける。できなかった問題は、3度繰り返し学習する。
- 振り返り表の取組 家庭学習の計画を立てるとともに自分が行った家庭学習について振り返りを行わせる。

わくわくゴールテンワーク

家庭学習	4月29日(木)	4月30日(金)	5月1日(土)	5月2日(日)
読書	62分	60分	67分	70分
テレビゲーム	15分	30分	30分	40分
その他	120分	100分	120分	120分

○毎日、記録して、5月6日に担任の先生に出ししょう。

- ・家庭学習・読書などの時間の記入
- ・テレビ・ゲームの時間記入
- ・家庭学習の内容の記入
- ・保護者懇談会にて保護者にも協力を求める。
- ・休日の家庭学習の時間を確保する。